

令和6年6月29日

令和6年度つながる鎌倉エール事業スタートアップコース 選考結果一覧表

| 事業名 | 審査項目 | | | | | | | 合計 | 結果 | |
|-----|-------------------------------|------|-------|----------|--------|-------------------|------------|-----|------|---|
| | 事業の公益性 | 事業内容 | 目的の設定 | 事業提案の実現性 | 費用の妥当性 | 継続性 発展性 将来性 | 先駆性 専門性 | | | |
| 1 | 「聞き書きボランティア養成講座」主催 (あしあと) | 4.5 | 4.0 | 3.8 | 4.5 | 3.3 | 3.8 | 4.3 | 28.0 | ○ |
| 2 | まちづくり事業 (鎌倉小町まちづくりラボ) | 4.3 | 3.8 | 4.3 | 4.3 | 4.0 | 3.8 | 4.8 | 29.0 | ○ |
| 3 | 多世代交流と居場所作り事業 (6+cafe) | 4.8 | 4.3 | 4.8 | 3.8 | 4.3 | 3.8 | 4.3 | 29.8 | ○ |
| 4 | 俺たちdeこの街つくろうぜ (トランスフォーマーズ) | 3.3 | 2.3 | 3.3 | 2.0 | 3.3 | 2.5 | 3.5 | 20.0 | × |

※各項目の平均点数の合計が21点以上の場合に採択

鎌倉市市民活動推進委員会選考部会からの講評

1 「聞き書きボランティア養成講座」主催（あしあと）

- 「聞き書き」という取組については、当事者の自己肯定感を高め、社会的な有用性についても意義があり素晴らしい活動である。また、「市民活動」のジャンルを広げていく取組として評価できる。
- 取組は評価できる一方、エール事業の趣旨である「地域課題の解決」という視点で活動をみると、当事者の話を聞き、自己誌を作成してお渡しするという内容には、当事者とその関係者のみが充実感を得られる形になってしまい、公益的な課題の解決には乏しく、生涯学習としての性質も併せ持っているとは評価せざるを得ない。
- そのため、取組を行ったうえで、どのように団体を発展させていきたいか、自分たちの活動は社会に対して、どのような価値があるかを今一度見つめ直し、会員を増やしていった先にどのような課題を解決できるか、今後NPOセンター等のサポートを受けながら、市民活動団体として公益的な課題解決の視点をもって取り組んでほしい。市民活動的な視点を持つことで、例えば介護予防や孤独孤立対策につなげていくなど、市民活動としての事業に発展していくことを期待したい。

2 まちづくり事業（鎌倉小町まちづくりラボ）

- 提案事業そのものは「地域のネットワークをつくり、市民の自治を促進する」といった、エール事業の趣旨にかなう取組として評価できる。課題も明確であることから、取り組む社会的な意義も大きい。加えて、コロナ禍以降の停滞している自治会町内会活動に対して、市民活動としてサポートしていくという発想がとても良い。
- 一方で、補助金の使い方には注意が必要である。地域の神社のお祭りを復活させることが目的となってしまうと、そもそもエール事業の対象外となるうえに、地域課題の解決や地域のつながりを創出するエール事業の趣旨とは異なってしまうため、本取組がそのように見えてしまうと、今後、神社等の振興のために補助金を活用したいと希望する団体も現れてしまうことが想定される。プレゼンからも伝わってきてはいるが、改めて取組の目的を町内会、地元関係者との連携に主眼をおくことを意識してほしい。
- また、自治会町内会等が貴団体に頼ってしまい本来の役割を果たさなくなってしまうよう注意も必要。そのために、神社のお祭りをきっかけとして地域の課題に目を向け、NPOセンター等のサポートなども通じて、貴団体だけで目的の実現や課題の解決をしようと抱え込まず、他の類似の地域づくりを担う団体とも目的や取組を共有し、連携しながら発展的に取り組んでほしい。

3 多世代交流と居場所作り事業 (6+c a f e)

- 地域の新しいニーズや困りごとを探りながら活動を続けていることは市民活動として素晴らしいことである。ぜひ6丁目クラブにはなかった要素を加えて、新たに地域の課題に取り組む団体として発展して欲しい。
- 6丁目クラブの活動が一度閉じられたことは残念であるが、地域住民からニーズがあったからこそ6+cafeとして復活した取組であると思う。地域課題への目の向け方、解決の方法などには既に取り組んでいるので、NPOセンター等のサポートを通じてより発展的に取り組める方法を模索してほしい。
- 特に、6丁目クラブ時代では、活動者に金銭面を中心に負担がかかってしまっていたとのことで、協力や連携できる他の団体や地域住民を巻き込み、一緒に活動していく力を養うことができると、団体としての継続性や発展性に大きく期待できる。地域の人が支えている活動として今後も発展してほしいことから、今泉台地域では様々な活動が行われているとお聞きしているため、そのような様々な団体と連携して取り組む視点をもって、地域の資源を活かして取り組んでほしい。例えば、地域住民のための居場所だけでなく、今泉台で活動を行う方々の活動拠点にもなるとよいのではないか。

4 俺たちdeこの街つくろうぜ (トランスフォーマーズ)

- 企画の方向性、課題意識、解決のためのアプローチ方法などの発想は、地域のつながりをつくり、地域における減災への取組を促進させる事業としてエール事業の趣旨と合致し評価できる。
- 一方で、企画内容の実現性に一部乏しさを感じざるを得ない。事業を進行しながら具体的な企画を考えていくという手法については理解できるが、公金による補助制度であることを意識し、一定の説得力を持たせた実現可能性のある企画立案が求められる。特に減災をテーマとしてどのように子どもたちを集められるか、貴団体としても自信をもって提案できるレベル感にまで計画をブラッシュアップすることが望ましいと考える。
- 企画の方向性としてはエール事業の趣旨にかなうものであることから、委員一同としてもぜひこの事業は実現させてほしいと願っている。そのため、地域とともに汗をかきながら連携できる仲間をつくり、子どもたちをうまく巻き込む企画内容を考え、実現可能性という課題をクリアしてから、ぜひエール事業に再チャレンジしてほしい。

● 審査選考会全体の総評

- 全団体を通じて取組の発想はよかったが、課題解決につながる取組として改善の余地を感じさせた。市民活動団体として、自分たちの活動でどのような課題が解決され、ありがたい姿はどのようなものを意識すると、より将来性や発展性が増し、団体としてステップアップできることが期待される提案内容であった。
ぜひNPOセンター等への相談を通じて、具体的な課題解決に資する取組へと昇華してほしい。
- 企画書の作成については、「審査委員に伝わる」ことを意識して作成されるとよりよい。企画書の完成度や解像度が高いと、団体としてはプレゼンでより想いを共有できる時間が増え、委員としては事業における本質的な質問を多くすることができ、団体としても同時に学びを得られる時間となるだろう。事務局側への提案としては、企画書作成の際の注意点を事前に応募者になんらかの形で伝えられる工夫をされるとよいのではないかと。
(例えば説明会などで昨年で指摘のあった事項を紹介するなど)
- プレゼンにおいては、団体から成果物のイメージや関連資料などの補足資料があるとより事業をイメージしやすくなるため、積極的に活用してほしい。
- エール事業のうち、スタートアップコース及び地域活性化コースは団体が単独で取り組む事業として、センターへの事前相談を必須にしていないが、これを継続する方向性でよいのかについて、事務局は検討してほしい。